

## 三重大学人文学部外部評価総評

三重県立松阪高等学校 小林秀則

人文学部の改革の取り組みについて、多岐にわたり検討し、前進しようという姿勢が顕著であり、高く評価したい。しかしながら、その成果は、目に見えてはでてきていないが、満足度調査などでは、現在在籍している生徒の評価は、十分高いものがあり、今後いかに情報発信し、生徒確保につなげていけばよいのか、学部内で今後さらに緻密な戦略が必要に思える。特に感じたこととして、2007年からは、少子化による生徒減により、大学全入への時代が到来するなかで、2003年を志願者のピークとして、その後下降線をとっていることに、極めて危機感を感じるようです。多分、私立大学は、生徒確保に必死となり、学部の存在価値もアピールしてくることが予測される。したがって、こうした状況のなかで三重大学人文学部は、どんな学部であるのか、高校生に、また、保護者にはっきりとイメージがわく学部でなくてはいけないと考える。人文学部のなかに、文化学科と社会科学科が設置されているが、他大学の人文学部は、経済学部と切り離されているところもあり、生徒にとっての社会科学科の内容が見えにくくなっており、そのため、他府県の私立の経済法学部へ行く傾向にあるのではないかと考えられ、外から見やすい学部への検討も必要であるように思える。

次に、入試についてであるが、前期、後期、AO、推薦など入試の在り方が多様になってきているが、三重大学人文学部として、どうするのかの議論が不足しているように感じられた。医学部においては、今年度から地元生徒確保への手立てについて、進路主任などへの説明もあり、積極的に地元へのアプローチを行なっている。工学部は、早くから工業部会との連携をとりつつ、推薦の導入やAO受験を実施している。人文学部の文化学科なども、高等学校英語研究会など学科としての特色を生かせる県内高校研究会組織との話し合いなど、まずは、地元高校生をいかに確保していけばよいのか、そのなかで入試の在り方も研究し、方向性を早急にだしていくことが必要ではないのか。また、社会科学科生徒確保の観点から、前期個別学力検査に国語と外国語となっているが、後期日程では国語、地歴又は公民、数学、理科から2科目選択、外国語となっており、経済や法学部希望の生徒が、前期個別学力検査で人文学部への受験を意識しないのではと危惧される。あたかも人文学部は、文学部とのイメージと捉えがちであるのかもしれない。

高校と大学との連携については、どこの学校も積極的に取り組んでいただき、高校側も感謝しているところである。大学の内容を知ることにより、なぜこうした学習が必要であるのか、理解しての学習は、高い意欲を生み出すものとする。こうした連携のなかで、母校の卒業生や大学院生との関係が深まり、進路決定にも影響してくるようになれば大学の先生方の負担も実を得られるものである。効率のよい連携にするために、整理する必要もあるように感じる。今年度実施のサマースクールなどをさらに発展させ、広報活動の拡大をはかることも大切なことと考える。

最後に、人文学部内で取得できるライセンスはできるだけ確保してほしいが、さらに、他学部との協力により、充実できうることについては、横断的に対処することも必要であるとする。人件費節約という観点もあるが、ライセンス取得という観点でも必要と考える。また、今後も、広く満足度調査などを行ない、不満足があれば、改善していく姿勢でのぞんでいただきたい。

### 上記評価に対する学部としての見解

松阪高校の小林先生には、学科のあり方、入試、高大連携、資格取得に至るまで幅広く改

善へ向けにご提案をいただきました。

まず、学部の内容が見えにくいという点についてはいろいろな方面からご指摘を受け、すでに学部でも検討を重ねているところです。外から見てもわかりやすい構成、名称は考えていかなければならないとは思っていますが、それには今後どのような教育を行っていくかという将来構想も視野に入れた議論が必要です。入試についても、それと関連させてより有効な方法を検討する必要があると思います。教員や学芸員、図書館司書など資格の取得についても要望が多いので、今後も学部として取り組んでいくつもりです。

高大連携については、従来から人文学部は積極的に出前授業を行っており、また、全学の進学説明会等の催しにも参加しています。これからも、それらを通して人文学部に興味を持っていただき、より多くの地元の方に受験していただけるように努めたいと思っています。出前授業以外にもこちらから出向いて直接進学指導の先生方のご意見、ご要望を伺う機会を持つことも考えております。